

# 日本酪農教育ファーム研究会が設立

全国で酪農教育ファーム活動に取り組む教育関係者の呼びかけで、日本酪農教育ファーム研究会が8月6日、設立された。研究会は全国で酪農教育ファーム活動に取り組む教師を中心に約50人で構成し、酪農関係者と連携した実践研究活動を行うことで、「食といのちの学び」の充実と発展を目的にしている。

## ● 教育的視点で活動内容を検証 酪農教育ファーム広めたい・國分会長

8月6日に東京都新宿区の区立東戸山小学校で開かれた設立総会では設立宣言を採択したほか、会長に國分重隆氏（東京都新宿区立東戸山小学校校長）を選任した。

設立宣言では、全国規模で酪農教育ファーム活動を教育的な視点で検証した上で適切で効果的な取り組みを推進、支援することや、酪農教育ファーム活動を実践している教育関係者と酪農関係者のネットワークを強固にするという設立趣旨をうたった。

國分会長は「研究会に参加した先生方は、酪農の大切さを実感してきた人たちだ。これまで先生方の名前や存在は分かっていたものの、一緒に思いを共有することはできなかったが、お互いの思いと、ネットワークづくりで、酪農教育ファームを広めていきたいと思っている」と述べた。

また、研究会設立の呼びかけ人の代表である羽豆成二氏（前帝京短大教授）は「酪農教育ファームは牧場で本物の乳牛に触れて、食と命を学ぶことが狙いだ。教室の中で座っているだけでは味わえない、言葉に言い表せない感動体験がある。五感をフルに活用し、頭と心と体のバランス、生きる力が身に付く。酪農教育ファームが本格的に動き出してから、成果が上がっており、基礎固めはできた。さらに発展、充実させるには各地の実践を見直し、全国的な活動を進めていくことが必要だ」と述べ、研究会の設立意義を説明した。

## ● 22年度は会員ネットワーク作りに重点 ● 研究会に酪農家の参加も呼びかけへ

平成22年度の活動は、本会が主催する酪農教育ファーム全国実践研究委員会に協力、参加して会員の交流を行うほか、独自の会員向けSNS（ウェブサイト上のソーシャル・ネットワーク・システム）の構築、各地の酪農教育ファーム推進委員会などが開催するセミナーや研修会へ参加し、会員同士のネットワーク作りを進め、積極的な広報活動も展開していく予定。研究会の役員は、國分会長をはじめ、副会長と監事は各2人、事務局長1人の計6人のすべてを教員が務めることとなった。國分会長は「酪農家が活動に関わらなければ酪農教育ファームは成立しない。今後は教員だけでなく、酪農家にも参加を呼びかけていく」と述べ、研究会の会員に酪農家を加えて拡大していく考えを示した。

一方、研究会設立後には同所で、本会が酪農教育ファーム全国実践研究委員会の初会合を開催した。この委員会は、酪農教育ファーム活動に取り組む酪農家、教育関係者が、その教育効果や今後の活動などを研究する組織。6日の会合には酪農家、教育関係者、指定団体職員など60人が出席し、酪農教育ファーム活動における「食といのちの学び」をテーマに活発な意見交換を行った。



設立総会に出席した酪農、教育関係者